



Sofia 2013 Organising Committee
of the 22nd Summer Deaflympics

2013 年 8 月 2 日

発行者: 日本ろう者テニス協会

取材/編集: 尾形スタッフ

所感～試合を終えて～

7月29日に日本選手の試合がすべて終了して4日たちます。

選手はこの4日間、時間をかけて試合を振り返りました。

振り返って、今後の課題を見出すにはまだ時間がかかりそうですが、今の時点での振り返りを書いてもらいました。

【松下哲也選手】

●ミックスダブルス

インドの男子は、浜松市立の石山君よりちょっと劣るレベルで、サーブは早い選手。特にスピンサーブが跳ねる高さが高くて打ち辛い。女子はストロークのスピードがあって、ボレーもきっちり決められる堅実なプレーをする選手。全国ろう者女子のトップになれるレベル。(阿部選手を除く)

この試合は僕にとって初戦だったので、動きが鈍く判断力が的確でなかった為、劣勢のまま終わってしまった。

●シングルス

シード権を得たので、勝ち上がってきたロシア19歳と当たることになりました。相手はレベルが高いプレーをする選手でした。昭和の森で試合した羽生沢さんと同じくらいちょっと上のレベルでフットワークも一級品の持ち主。気性が荒く、プレーの安定感に欠けるが、すぐ切り替えができる。相手のバックに緩いボールを出してミスを誘う作戦が成功して1ゲームとったが、相手がすぐ切り替えてギアを上げて速いボールで振り回されて最後まで相手が主導権を握ったまままで終わりました。

●男子ダブルス

相手はシングルスで当たった19歳選手とサーブのファーストとセカンドの差がなく打ちづらいスライスサーブを打つ選手。19歳選手は強いが、パートナーはボレーミスが多い、ストロークに威力がないので、その人を狙ってポイントを得る作戦を実施。

1セットは19歳のサーブを3回もブレイクしたが、芦野君のサーブをキープできなかったため、落とした。

2セットは芦野君のサーブキープと19歳ではない方の選手のバックを徹底的に狙い、チャンスボールを仕留める作戦の効果が表れて4-0でリードしていました。相手がツーバック作戦に切り替えてから守りがよくなって5-4まで追いつけられたが僕のサーブキープで2セット目を取りました。

3セット目は、相手のサーブの順番がブレイクしやすい19歳選手から、サーブが好調な選手に変更になり、相手のプレーの質が上がり、徹底的にミスが多い選手を狙えることが少なくなり、ちょっと浮足がたってポーチの数が少なくなってしまう負けました。

相手は勝つために色々考えて作戦を練ったことが勝因だったと思います。

【芦野正樹選手】

●シングルス

イギリスのネットプレーを軸にする長身の左利き選手が相手でした。ラリーに持ち込めた時はポイントが取れていたのですが、相手の得意なネットプレーに詰められる形になることが多かったのと、サービスの対応に苦勞しブレイク出来ず負けてしまいました。

リターンは課題として取り組んでいたのですが、克服できていないところがやはり試合で出てしまい、完敗でした。

●ダブルス

強力なサービスを持つロシアペアが相手でした。

相手の早いサービスをなんとか返し、序盤はゲームを優位に進めていたのですが、逆転され最初のセットを落としてしまいました。2セット目は攻撃的にいきなりと取ったものの、最終セットでロシアペアは2バックを混ぜてくる等戦術変更をして来たのに対し、こちらは有効な手を打てず後手にまわってしまい、負けてしまいました。

技術の向上はもちろんですが、接戦をモノにするためには勝つために考える力も同時に向上はさせなくてはならないと思いました。

【豊田恵子選手】

●混合ダブルス1回戦

スピードのある相手なのでブロックに注意しつつ女性を狙って、男性がカバーに入ったところをオープンスペースに決める作戦でしたが、こちらのミスが多く、悪くなった流れをそのまま立て直すことができませんでした。

●シングルス2回戦

2セット目の序盤、相手にフォアのミスが出始めたので流れをつかめそうでしたが、こちらミスが多発してしまい、その間に立て直しされてしまいました。もっとゲームをとれる、あわよくば逆転できるチャンスがあっただけに悔しいです。

●まとめ

シングルスもダブルスもゲームの流れは見ていたし、チャンスもいくつかあったのにそれをモノにすることができませんでした。スピードやパワー、スタミナも大事な要素ですが、「キーポイントでミスをしない」ことが勝つために重要だと改めて思いました。今大会でそれが出来なかったことは本当に悔しく、反省しています...。メダルはとても遠く、かすりもしませんでしたが、強化合宿のおかげで国内の時以上に良いパフォーマンスが出来ていたと思います。

日本の皆さま、良いご報告が出来ずに申し訳ございません。これまで色々ご協力、応援していただきまして本当にありがとうございました。とても勇気づけられました！

【内藤コーチ】

●松下選手

ミックスでは足が動かず全くダメでした。気持ちも入りきらず、アジア大会で見せた気迫は全く感じられませんでした。シングルスでは強者相手に食らいつきダブルスでは一矢報いる健闘を見せました。全体的に後半持ち直したのはさすがでした。

●芦野選手

良くも悪くも芦野選手らしいプレーを見ることができました。このデフリンピックで一皮剥けるかと期待しましたが、そこまでは至りませんでした。

●豊田選手

アジア大会でも思いましたが、国際大会の方が良い試合をします。ただ、試合の流れを読む掴むことができれば一つ今の実力でももう少し何とかなると思いました。

【稲辺監督】

松下選手、芦野選手、豊田選手とも2回戦で、必死で戦ったが、勝てなかった。

男子ダブルスはもう少し頑張れば、勝てたはず。本当に惜しい。

やはり、デフリンピックでは練習の環境などに差があることがわかりました。

日本へ帰った選手には温かくねぎらいの言葉をかけてやってください。

ご声援ありがとうございました。